| 科目名 | 音楽Ⅲ | 履修学年 | 第３学年 |
|---|---|---|---|
| | | 履修形態 | 選択 |
| | | 履修単位 | ２単位 |

| | |
|---|---|
| 使用教科書<br>（出版社） | 音楽Ⅲ（教育出版） |
| 使用教材<br>（出版社） | なし |

## 学習の目標

音楽Ⅲでは、音楽Ⅰ・Ⅱで学習した内容･経験を基礎としてそれらを発展させ、音楽の諸活動を通して音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。主な学習内容は（1）歌唱･器楽･創作などの表現力の伸長にかかわるもの、（2）文化的背景に基づく西洋音楽や日本の伝統音楽･音楽史、また、音楽理論も学び音楽の喜びを味わう。

## 教科担当者から

第３学年の音楽Ⅲは１年次、２年次の授業を発展させた内容です。
互いに協力し合いながら進めていく活動や、クラス以外の人前での発表もあります。
活動に積極的に取り組みましょう。

## 評価の観点・方法・割合

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規準 | 音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 | 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。 | 創意工夫を生かした音楽表現を身に付け、創造的に表している。 | 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 | |
| 方法 | ※　◎は観点の中でより重視するところです。 | | | | |
| 学習の行動観察 | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| 活動の成果 | ○ | ◎ | ○ | | |
| 提出物 | ○ | ○ | ○ | ◎ | |
| 実技テスト | | ○ | ◎ | | |
| | | | | | |
| 割合 | 20% | 25% | 40% | 15% | |

## 評価の基準　※ 満点を100点としたとき

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| ８５点程度以上 | ７０～８４点程度 | ４８～６９点程度 | ３０～４７点程度 | ３０点程度未満 |

## 学習内容

| 学期 | 月 | 単元名／学習内容 | 学習のねらい | 評価の観点 関 | 創 | 技 | 鑑 | | 時間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | ソルフェージュ<br>○聴音<br>○視唱<br>○楽典 | ・音名唱のトレーニングを行い、音感の向上を目指し、今後の音楽活動の幅を広げる。 | ○ | ○ | ○ | | | 6 |
| | 5,6 | 器楽　ピアノ | ・鍵盤楽器の基礎を学び、楽曲の演奏を楽しむための技術を身に付ける。 | ○ | ○ | ○ | | | 10 |
| | 6,7 | 選択演奏 | ・これまでの取組の中から活動を選択し、全員で表現を工夫して音楽をつくる。学校祭で発表する。 | ○ | ○ | ○ | | | 10 |
| | 8,9 | 器楽　ハンドベル | ・ハンドベルの奏法を知るとともに、他者と協力して一つの音楽を作り上げる喜びを味わう。 | ○ | ○ | ○ | | | 8 |
| | 10、11 | 歌唱　アカペラ | ・声域の拡大や発声方法を学ぶ。<br>・歌詞や曲想を感じ取りながら、各自の声質や個性を活かした表現を目指す。 | ○ | ○ | ○ | | | 12 |
| | 11 | 鑑賞　オペラ | ・作者達の人物像や創作の背景を知り、作品に込められたﾒｯｾｰｼﾞを理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 4 |
| | 12、1 | 演奏会を企画しよう | ・演奏会を行うために必要な知識を学び、学内演奏会の企画を行う。<br>・３年間学んできたことのまとめとして器楽・歌唱・創作から、各自で選択し個性を生かした表現を目指す。<br>・互いの演奏を聴き合い、感じたことを交流する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 10 |
| | | | | | | | | | 60 |